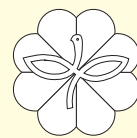


# 民児協おかやま

岡山市



第55号

令和7年11月1日



初代園長 土光午次郎先生



土光午次郎先生頌徳之碑

## 済世 | 『土光午次郎～「南野育成園」の創設者～』

児童養護施設「南野育成園」は、岡山市北区北長瀬表町にあります。敷地には、園の子どもたちを見守るように1基の石碑が立っています。土光午次郎（1894～1954）の碑です。

付近一帯はかつて大野村・今村と呼ばれ、大地主だった土光は同園設立に先駆けて、明るく豊かな理想の郷土づくりに情熱を傾けていました。

民生委員の前身となる済世委員として、育児から家庭の台所改善まで多彩な社会事業を花開かせました。一日中家事に追い回されていた女性の負担軽減へ台所設備を改善したり、禁酒会で酒害一掃を図ったりする運動も推進しました。農村の娯楽が少なかった時代、「乾ききった社会」に潤いを与えようと、盆踊り「南野踊り」を始め映画会を催しました。

保健師による妊婦訪問、乳幼児健診を行う子宝講、育児力を高める母の会、夫婦同伴の家族会、青年の育成を図る読書会、演劇活動……。子育て支援や教育関係を軸に、その数は30種類前後にも及びました。

終戦後、連合国軍司令部（GHQ）の農地改革で多くを失った土光は、1949年に同園を立ち上げましたが、その5年後、急性肺炎のため志半ばで世を去りました。

同園にある石碑の碑文には、「全生涯を民間社会事業に捧げられた」と刻まれています。

### 目次

退任にあたって .....	2
旭竜地区「災害時一人も見逃さない運動」の取り組みについて ..	5
主任児童委員部 .....	6

地域福祉推進部 .....	7
わたしの趣味／編集後記 .....	8



この広報誌は、共同募金配分金の一部をつかって作成しています。

## 退任にあたって



北区（内山下地区）  
松浦 利子

この度の一斉改選で、民生委員・児童委員を退任いたします。

思えば、何も分らないまま民生委員・児童委員を引き受けて、二十五年が過ぎました。

その間、定例会をはじめ、いろいろな研修会へ参加させていただき、少しずつ民生委員とは何ぞやということが身についてきました。

旭川荘でのボランティア、笠井県知事像のある石山公園の早朝の草取り、そうじ。年一回の視察研修、また八十才以上の一人暮らし宅への訪問等々、たくさん研修を通して学ばせていただいた貴重な体験は、私にとって、ありがたい宝物となりました。

お年寄りの方々は、一人で寂しい思いをされている人が多いと感じます。何げない会話でも聞いてあげる

と、大変感謝されます。

この地区はお年寄りの人口が増えている所なので、今後増々、民生委員・児童委員の必要性を感じます。話し好きな私にとっては、大いに生きがいを感じて日々を過ごすことが出来ました。

私は地区会長を一期のみお引き受けしました。各団体への出席、参加が多くなり大変でしたが、今となつては様々な体験を通して、大いに勉強させていただいたと、ありがたく思っています。

先日、五月に八十才以上の有志の方々にお集まりいただいて「おたのしみ会」を開催しました。昼食会、その後に歌あり、踊りあり、お芝居ありで楽しんでいただきました。最後に大きな催し物を開催することができ、地区の民生委員・児童委員の皆様に変感謝しています。

現在、民生委員・児童委員の成り手が少なくなっていますが、身近な相談相手として、自覚をもつて、前進していくて頂きたいと祈念いたします。ありがとうございました。



北区（津島地区）  
田淵 正志

「是非とも民生委員を引き受けてほしい」と、顔見知りである町内会長の依頼を無碍に断ることもできず、顔で笑つて心で泣いて「じゃあ一期だけ」と言葉を返したのは平成十年秋のこと、当時私は五十二才で仕事も忙しく本当に一期だけで辞めるつもりでした。

しかし、引き受けた以上いい加減にもできず、仕事が終わったあと住宅地図を手に、そして、身分証を首から下げて一人暮らし、高齢者のみ世帯への訪問が始まりました。

当時は私より二回り、いや、三回りに近い親のような年齢の人たちばかりであり、どのように関わっていけばいいのか不安でいっぱいでしたが、訪問を重ねるうちに高かった敷居もいつの間にか感じなくなり、また、仕事をしながらでも活動は充分できるという自信もついてきました。まさに「案ずるより産むが易し」です。

民生委員になつていなければ、恐らく一生涯することもなかった人たちから「ありがとう」「ご苦労さん」「無理せんように」とたくさん励ましの言葉をもらい、また、活動をとおして、一人二人と仲間が増えていき人間関係が次第に広がっていく喜びを感じるうちに一期が二期に、二期が三期に、そしていつの間にか四半世紀が過ぎ去っていました。

その間多くの人たちとの別れがあり、また、多くの人たちとの出会いがありました。

そして、親に近かった年齢の人たちとの関わりから、兄弟のような年齢の人たちへの関わりへと変わっていきました。

さて、定年を前にした最後の三年間が始まるとき、担当外の地区の後任者が見つからず止むを得ず私が兼任することとなりました。

今までの経験から当初のような不安はありませんでしたが、初めて民生委員になった時と同じで、だれがどこに住んでいるのか全く分かりません。

また、住宅地図を手に、そして、首から身分証を下げての訪問が始ま

りました。

一からの人間関係作りは確かに大変でしたが、民生委員最後の三年間を、初心に戻ってあの時と同じような新鮮な気持ちで活動できたことは大きな喜びでもありました。民生委員を辞しても、これからも良き隣人として関わっていければと思います。

最後に、今まで大過なく活動できたのも、たくさんの人たちの励まし、支えがあったればこそ……と心から感謝しています。本当にありがとうございます。



中区(富山地区)  
本澤 美夜子

平成十年の今頃の時期だったと思います。町内会長が我が家に「民生委員を引き受けてもらえないだろうか。」と来られました。当時仕事を持っていたし、民生委員にも馴染みがなく、即座にお断りしました。三度、四度と…。見かねた主人に「よくは分らんけど、できるだけ協力

するから考えたら…。」と言われ、会長の「月に一回の定例会に出席するだけらしい。」と言う言葉を信じ、それならとお受けしました。一期目は何をどうしていいのか戸惑ってばかりでした。学区内の先輩方の教えを頂き、交わらせていただく方々のお人柄にふれるにつれて、人とのふれ合いが楽しくなってきました。

「元氣の出る会」のお手伝いをすることになり、発祥に尽力された会長である富房一男さんのお人柄にふれられたことは、何よりも心に深く残っています。正に薩摩男子「せごどん」を彷彿させられる、すばらしい方でした。その他書き切れない程の方々との御縁で、助けられてきました。

平成二十九年東京ビッグサイトで開催された「百周年記念全国大会」に出席し、当時の天皇・皇后両陛下からいただいたお言葉は身に余るご褒美でした。

それから時を置かずコロナ禍に巻き込まれ、今までの活動は何だったのかと思われる程動きが止まってしまいました。二十七年間役に立ってきたかどうかは判りませんが、担当

した独居の方が「貴女が外で話している声が聞こえてくるだけで安心出来る」と言ってくださった事が、宝物です。二十七年間、私の頭脳、手足になり何かと助けてくださった、地域のボランティアの方々には心から感謝しております。



東区(可知地区)  
物部 香苗

私が主任児童委員になったのは二十三年前、先輩から「子どもたちの為に働いて貰えませんか?」という声掛けを頂いたのが始まりです。「自分には何が出来るのだろうか?」と日々模索する中で、「そうだ、子どもたちと顔見知りになれば、何処でも声掛けが出来るんだ。」と気が付きました。

そこで、集団登校の集合場所から一緒に登校し、校門の前で「お早うございます!」とあいさつすることから始めました。

次に、保育園や幼稚園、小学校や中学校への訪問も始めました。

餅つき大会でつきたての餅を園児とご馳走になったり発表会で歌を聴いたり、楽しく参加させていただきました。

朝のあいさつを続けるうちに、子どもたちと顔見知りになり、元氣のない子には「朝、お母さんに叱られたの?」とか、「朝ご飯食べた?」と、声をかけるようになりました。

地域の方や先生方から、「可知の子どもたちはあいさつがよく出来るね。」と褒めていただくと、とても嬉しい気持ちになります。

令和元年十二月に民生委員児童委員になり、高齢者の見守り訪問をするようになりました。すると、地域の方とも顔見知りになり、畑仕事の人から「キュウリ食べる?」と声掛けをして頂くことも度々ありました。

そんな中で悲しいこともありました。警察の方に、「この人分かりますか?」と尋ねられ一緒に家を訪問すると、玄関には鍵が掛かり郵便受けには新聞がはみ出していました。

生前、「コロナで温泉にも行けず、お酒ばかり進む…」と言っておられたのを思い出しました。この時初



めて一人暮らし高齢者の緊急連絡簿を使いました。

十分なこととは出来ませんでした  
が、地域の方の支援や協力を助けられながら努めさせていただきました。心より感謝申し上げます。有難うございました。



南区（藤田地区）  
妹尾 健二

今回の一斉改選で定年を迎える事となりました。平成十八年十一月、町内会長から民生委員の就任依頼があり、民生委員の活動内容も分からないまま引受けました。私の担当地区は昔からの方達が多くほとんどの方が顔見知りだったので、活動自体さほど難しいとは思いませんでした。

しかし、色々と出来事もありました。十数年前になりますが、たびたび訪問してお話を聞いていた独居老人の自宅が全焼し、通報を受けて駆け付けました。寒い時期であり震えながら途方に暮れているのを、近所の

方達が毛布、温かいお茶、おにぎり等で励ましてくださいました。更に地区内の老人施設の協力で入所する事ができました。支え合い助け合う、これが共助だと実感しました。

また、不仲の高齢ご夫婦にたびたび呼び付けられ、延々と愚痴を聞かされた経験もあります。今はお二人とも他界されましたが懐かしい思い出です。

児童クラブの立ち上げ、サロン活動の立ち上げにも協力させていただきました。コロナ禍でサロン活動もしばらく中断していましたが、今は二地区合同で再開しています。

残念な出来事もありました。多数の子ども達が利用していた児童館が閉館となつてしまいました。諸般の事情があつたとは思いますがとても残念です。長い間子ども達を見守ってくれていた大樟の木も伐採されて、跡地は駐車場になってしまいました。存続に向けた運動を地域の人達とともにすべきだったと残念でなりません。また、私達の地区では三期もの間委員が欠員になっている地域があります。なり手不足はとても深刻です。関係者の皆さんが奔走し

て下さっていますが、今期もどうか心配です。

長い間お世話になった、委員の皆様、地域の皆様、本当にありがとうございます。心よりお礼申し上げます。今後は晴耕雨読、悠々自適に老後を楽しみたいと思っています。



南区（芳泉地区）  
草刈 茂子

この度の一斉改選で民生委員・児童委員を退任致します。顧みれば平成十六年十二月一日就任以来七期二十一年間、いつの間にか定年を過ぎていました。前任者もなく「民生委員」がどんな事をするのかもわからず、ただ地域の高齢者を訪問し私自身を知ってもらい、私も地域の事を知り、訪問先の高齢者との心の絆を結んでいこうと決めました。

定例会、勉強会、学区のイベントにも参加し人と関われることが増えることで「気づき」が訓練され、色々なケースを知ること、自分自身少しずつ成長したように思います。

何事も、失敗を恐れず皆様の協力を得て、前に進むよう日々努力することを学びました。

地区会長になった時に私は「三つの氣」を心に定め、実践するように努力しました。

一、「やる氣」何があっても持続する事

二、「本氣」何事も誠実に向い合う事

三、「元氣」健康に努めまず自身が元氣である事

これらを、モットーとして頑張りました。

民生委員・児童委員協議会会長として関らせて頂き、今の自分があると思っております。

様々な活動を通して皆様から学ばせていただいた貴重な体験は今となれば宝物です。

本当にありがとうございました。感謝の気持ちでいっぱいです。



## 旭竜地区

# 「災害時一人も見逃さない運動」の取り組みについて

旭竜地区民生委員児童委員協議会

会長 八代 武利

中区旭竜地区は、岡山市中心部より直線距離で約5kmに位置し、百間川以東、新幹線以北に広がる住宅地です。

かつては市内への野菜の一大供給地でしたが、昭和四十年頃より高島市営住宅の建設が始まり、人口、児童数が増加しました。

増加に伴い、昭和五十二年に宇野、高島の両学区より分離してできたのが当地区です。

来年、令和八年に五十周年を迎えます。

新しい地区ができた時から「ふれあいの町・福祉の町 旭竜」をモットーに地域づくりを行ってきました。

その流れを絶やさないよう、地区民児協は学区連合町内会及び各町内会、各種団体、学校・園との連携を

強め、活動をしています。

平成二十五年より、年一回行っている連合町内会主催の防災訓練では、コミュニティハウスに設置されている防災放送装置よりサイレンと共に防災訓練のアナウンスが地区全体に響き渡ります。

アナウンスを合図に、各町内より避難所に指定されている小学校の体育館へ避難行動の訓練が始まり、そこで児童と合流し、各自の避難経路の確認等を行います。

地区民児協からも、避難行動要支援者の方への電話による安否確認の訓練を行います。

この訓練に参加するのは、自力で避難ができる人のみです。

地区内には、先に記した五十年前に作られた市営住宅が避難所から一番遠い所にあり、居住者のほとんどが高齢で一人暮らしの方が多く、ま

た、その他に福祉施設もあります。

令和五年度より「災害時一人も見逃さない運動」の指定地区に手を挙げた当地区民児協として、この方たちを災害時どう支援するのかわという事が一番の課題となっています。

はじめに、令和五年度は高齢者及び災害時要支援者のマップを作成しました。

このマップで地区の要支援者を把握し、次の個別避難計画作成への足掛かりとしました。

次に、令和六年度は各町内会長にお願いして、また民生・児童委員も協力し、個別避難計画作成の希望者を調査し、確定しました。

そして、令和七年度は個別に近所の支援者をお願いし、個別避難計画の作成完了となります。

当地域の特性であり最大の課題が、先に記した高島市営住宅に関することです。

宇野学区から分離した中島、八幡地区は、自己用住宅と賃貸住宅が混在し、若い人が居住しているため、災害時要支援者の近所に支援者

が得られ易いのですが、高島学区から分離した高島市営住宅は、高齢化率が七十五%に上り、一人暮らしが六十%となっており、支援者がなかなか見つからないのが実情です。

そういう状況で、何とか一件でも二件でもと努力していますが、この地区については、何か別の避難方法を行政にも考えていただかないと解決できないのではないかと思います。

災害はいつ来るか判りません。先の見えない状況の中「災害時一人も見逃さない運動」を続けていけるのは、学区の連合町内会及び各町内会、各種団体、学校・園との連携協力体制が整っている旭竜地区ならではと、わが地区を誇らしく思いながら雑文にて綴りました。



## 主任児童委員部

部長（上道地区民児協）

濱野 昌子

六月二十日に岡山市主任児童委員部全体研修が開催されました。

「私が笑って育てた子は重度知的障がいに伴う自閉症児と健常児」と題して津山市にお住いの蓬郷由希絵さんに講演をしていただきました。

由希絵さんは、「同じような思いをしている人に少しでも元氣になってほしい」と、全国で講演し、とてもお忙しくされています。イン스타그램で拝見している由希絵さんに実際にお会いする機会ができたことを大変うれしく思います。他の講演会では仮装をして登壇される由希絵さんですが、この日は、主任児童委員の研修であることもあり、比較的フォーマルな装いでした。

由希絵さんの二人の娘さんは、現在、高校生のこなさんと中学生のゆいなさん。妹のゆいなさんが自閉症児であり、障がいがあるとわかったときは、この子とこの世を去ろう

かと思つたくらい悩まれたと話されました。

ゆいなさんは、幼いころから一つのことを習得するのにも予行演習が必要で、健常児に比べてたいへんな時間を要すること。ゆいなさんを特別扱いせず、子どもの自立へ向けて、



当たり前のことが当たり前にできるように生活スキルを教えていこうと、なるべく手をださないようにしてきた過程など、ユーモアをまじえて話をされました。たくさん葛藤や悲しみがある生活でしょうが、とにかく明るいお母さん。愛情いっぱい子育てをされているという印象でした。

姉のこなさんが小学校五年生の夏休みにおこなった、妹に関する自由研究の紹介も心に残りました。「うざいところもあるけれど、大切な存在」と気づく優しいお姉さん。家族の尊さを考えさせられました。

最後にゆいなさんがお母さんに宛てた手紙に書いていた言葉「お母さんの子どもに生まれてきてよかった」が紹介され、会場は涙で包まれました。

私たち主任児童委員は、悩みながら子育てをしている保護者の方に少しでも耳を傾け、寄り添いながらお話が聴けるよう、この講演でたくさんヒントをいただいたように思います。





## 地域福祉推進部

副部長（太伯地区民児協）

児仁井 克一

令和七年八月二十六日（火）に岡山市勤労者福祉センターを会場に、部員全員を対象に講座研修会を開催した。



「人ごとではない 災害時に起きた医薬品関連問題」を演題に、岡山県統括災害薬事コーディネーターである株式会社ケイ・クリエイト代表取締役社長（こやま薬品 薬剤師）金田崇文氏を講師にお迎えし、東日本大震災や熊本地震・能登半島地震などにおいて、薬剤師としての豊富な災害支援経験に基づいた災害時の薬事関連の実情のイメージを具体的にお示しいただいた。

災害時に備え、一週間分の薬をストックしておくことや、必要な薬が分かるようお薬手帳等の準備をしておくこと、また、その理由を民生委員児童委員が関係者に伝えることができるようになることが大事であると、各種の写真や資料を交え熱く語られた。

特にお薬手帳は、記載されているアレルギー歴や副作用歴、主な疾患の既往歴の内容が薬の処方上大いに役立つこと。薬局で処方されるときに添付される薬の説明書をスマホで撮影しておいてもよいこと。さらに、一般用医薬品の有用性と危険性を理解して、トラブルが生じないようにすることの重要性を分かりやすく講



演された。

講師へのお礼を申し上げ、本日の研修の成果を今後の民生委員児童委員活動に活かすと共に、それぞれの単位民児協に持ち帰り、委員全員で共有していただくようお願いし、閉会のあいさつとした。



## わたしの趣味

### 保護犬との生活



石井地区民児協  
周藤 貴子



犬猫の保護シェルターで犬のお世話や猫の預かりボランティアをする中で、「元野犬の難しさやゆっくり時間をかけ向き合う大切さ」を学びました。4年前そこで出会ったのが、シシ罌で左前脚を失った元野犬の幸（さち・現在5歳メス）でした。受け入れには自宅周辺の環境を考え大変悩みました。しかし、それ以上に深い縁を感じ家族として迎えました。街や人に慣れるまで2年を要しましたが、今では一緒に色々な場所へ出かけ、多くの経験を積み、できることが増えました。先住の保護猫ともすぐに仲良くなり、散歩では「さっちゃん！」と声をかけてもらえる人気者に。幸はその名の通り、家族に多くの幸せを運んでくれる大切な存在です。興味のある方は是非犬猫のボランティアを経験してみてください。新しい景色が見えますよ！

◆委員より◆ 「わたしの趣味」を募集します。写真・絵・工芸・俳句・川柳など自薦他薦は問いません。

事務局までご連絡ください。

事務局（福祉援護課内） ☎086-803-1218



市民児協ホームページをご活用ください

URL : <http://oks-minjikyo.jp/>



### 編集後記

三年前に広報委員会が新たなメンバーでスタートした頃は、各委員が緊張気味でどこか遠慮する雰囲気だったように思いましたが、回を重ねるごとに全委員が活発で気軽に発言をし、とても良い雰囲気に変化していききました。

チャットGPTなどのAIアプリ（人間のよう自然な文章を生成する能力を持つ人工知能アプリ）を利用して文章作成するような時代に、広報委員会の今後はどう変化していくのでしょうか。

しかし、投稿された皆様の個性を大事にするような豊かな広報誌にすることや、はじめに述べたように、より良い雰囲気を作り上げていくことは、まだまだAIには劣らないぞと思いたいところです。

ご投稿された皆様、そして、お読みいただいた皆様に感謝申し上げます。

番木 勸晴 記